

平成 26 年度第 3 回図書館協議会議事録

1 開催日時 平成 26 年 12 月 20 日（土）午前 10 時 00 分～12 時 00 分

2 開催場所 中央図書館 2 階視聴覚室

3 出席者

（委員）根津委員長 押樋委員 松本委員 埜委員 奥委員
土久委員 須賀委員 伏見委員 扇谷委員
（事務局）森田館長 齋藤副館長 本多係長
長田係長 森田副主査

4 議題

（1）報告事項

- ①平成 26 年度利用統計及び事業報告について（9 月から 11 月）
- ②補正予算について
- ③決算委員会について
- ④その他

5 議事の概要

- ①平成 26 年度 9 月から 11 月の利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
- ②補正予算について、事務局より報告を行った。
- ③決算委員会について、事務局より報告を行った。
- ④図書館カルチャー開催結果及び今後の事業について、事務局より報告を行った。

6 会議経過

- ①平成 26 年度 9 月から 11 月の利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
その際に表明された意見（質問）は次のとおり。
（意見）利用の量的な比較だけではなく、質的な比較を行った資料を検討してもらいたい。
（回答）図書館の自己点検評価において質的評価も行い報告をしている。利用統計及び事業報告においても工夫してゆきたい。
（意見）堀江分館の長期休館のマイナスを、再開時のイベントなどによりプラスに転じる方策を考えてもらいたい。
（回答）公民館との連携も図りながら、図書館としても取り組んでいきたいと考える。

- (意見) 来年こども園がオープンするが、平日に母子で図書館に来館することが難しい状況がより進むことが予想される。インターネット上でお母さんたちが絵本についての意見や、感想が書きこめるようなサイトがあると魅力的だと考える。
- (意見) 分館に閲覧スペースや集会スペースがほしいと思っている。高齢化に伴い、地域での図書館利用が増えてゆくなかで必要性を感じている。
- (意見) 分館のスペースについては、全国の自治体を見てもこれだけ恵まれている例は少ないと思う。堀江公民館の大規模改修を経験にし、今後の運営を進めてもらいたい。公民館と図書館のすみわけができていないので、図書館と公民館のあり方のモデルケースを浦安が作ってもらいたいと考える。
- (意見) 全国の公共サービスでいえば、人口の減少により施設の統廃合が始まっている。将来的には公共施設の減少という選択もあり得るので、図書館の中だけの議論では不十分である。
- (意見) 全国的にみると浦安市の公民館は活発な利用が続いており、危機的な状況ではない。また、公民館と図書館の連携はうまくいっていると思う。

②補正予算及び震災情報アーカイブ事業について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

- (質問) 委託する事業の対象の範囲はなにか。
- (回答) アーカイブシステムの構築と、コンテンツ 4 万件の作成を委託する。メタデータのフォーマットは国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」との連携を前提とする。
- (質問) プロポーザルの選考委員のメンバーはどのようになっているか。外部アドバイザーの予定は。
- (回答) 「事業者選定委員会」は生涯学習部長を委員長に、生涯学習部次長以下電子資料導入検討委員会の委員の合計 9 名により構成される。外部アドバイザーの予定はない。
- (質問) 他の自治体ではメタデータ作成時、写真などは撮影場所の特定等が地域に詳しい者でないとわからないことがあるように聞くが、職員が関わってゆくのか。デジタルアーカイブ自体、あまりモデルケースはなく図書館の負担が大きいと思われる。過去の事例の研究などを進めてもらいたい。また、どこのシステムも後から修正を加えているようである。修正等が困難にならないようシンプルなシステムが良いと思う。
- (回答) 写真などは撮影場所の特定等については、この事業は行政資料が中心のアーカイブ化であるので写真の G P S 情報については職員からの確認が可能である。
- 人手が必要な作業については、図書館内実務担当者グループの他に電子資料導入検討委員会のワーキンググループにより対応する。

システムの構築については、価格だけでなく民からの提案を重視していくという意味からもプロポーザルを選択し業者選定を考えている。

(意見) 小中学校での利用も考慮したものにしてもらいたい。

(意見) そのためには権利処理が大切である。二次資料の利用について盛り込むことが必要である。

(回答) 学校を含めた防災教育についても本事業の目的と考えている。
そのための素材となるものができればよいと考えている。

(意見) インターネットによる情報提供も大事だが、紙ベースの資料も図書館で見ることができるようになるのか。

(回答) 今回のアーカイブ化の資料には紙ベースの情報は少ない見込みであるが、図書館における保存については、キャパシティの問題もあり、今後検討していきたい。

(意見) デジタル化することで、未来永劫までデータを残せるとは限らない。場合によっては紙媒体のほうが保存に適していることも検討してもらいたい。

③決算委員会について、事務局より報告を行った。

意見（質問）なし。

④図書館カルチャー開催結果及び今後の行事について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

(意見) 「孫といっしょに図書館へ」はおさんぽバスでポスターを見た。図書館はとても進歩していると感じた。

オーランドに行ったとき、小学校の図書室は子どもたちの休憩スペースに本棚が置いてあるといった感じであった。このような本のあるスペースが市役所の中にもあるとよいと思う。公民館でも公民館内のロビーで資料が活用できればよいと考える。

(意見) 行事のチラシについては、福袋など、最近浦安に来た人にはわかりにくい部分がある。行事の日時を伝える案内だけではなく、その行事がどんなに楽しい行事であるかなどを伝える工夫がほしい。

(意見) 講演会は新しいテーマを取り上げていてとても良い。twitterで話題になっているのも見た。もっと多くの市民に知られるよう努めてほしい。

(意見) 全体的にPRが不足している。震災情報のアーカイブ事業もNHKで紹介されたが、図書館をもっと前面に出した広報ができるとうよい。

100歳以上の高齢者が増えるなど高齢化が進む中で、目や耳の老化にも対応した読書の楽しみを情報発信していくという、未知の世界に取り組む勇気を図書館は持ってもらいたい。

(意見) 震災情報のアーカイブ化について、図書館が中心となって行くと聞き安心している。司書の方がきちんと仕事をされていることを評価しているが、今後司書が不足することが心配である。そのためにも、図書館をPRして

いくことが課題と思う。

(意見) 図書館が市民に役立っていることをアピールすることも必要であるが、機械による省力化や、非常勤職員の活用を進めたうえで、なお正規職員が必要であることを説明すべきである。

7 傍聴者 0名